

公式パンフレット

鉄と光の芸術祭 2023



2023年9月9日(土)・10日(日)・
16日(土)・17日(日)・18日(月)・
23日(土)・24日(日) **7日間**

開館時間 10:00-16:00

※千穂萬歳堂の展示は、9月16日(土)・17日(日)・18日(月)・23日(土)・24日(日)の5日間

●オープニングパーティ
9月8日(金) 17:00～ 旧絵鞆小学校野外スペース
(旧絵鞆小ライトアップ・室蘭クイズ大会・飲食ブース等)

入場無料

○会場 旧絵鞆小学校(祝津町2丁目) / 千穂萬歳堂(海岸町3丁目) / 室蘭市中央町スピーカー(中央町)

MURORAN ART PROJECT 2023「鉄と光の芸術祭」
公式パンフレット

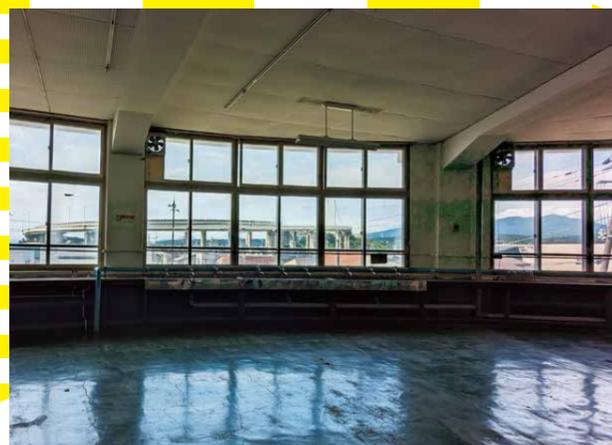
発行:2023年9月1日
発行、制作:Muroran Art Project
編集:石川 伸一
アートディレクション&デザイン:バックヤード、H2
旧絵鞆小学校 写真:山田 正樹
制作:MURORAN ART PROJECT



<https://m-a-p.jp/> Mail : info@m-a-p.jp

Two circles. Art in the middle of it.
Become a place of beginnings.

ふたつの円 その中のアート はじまりの場所になる



本芸術祭は、アートの力で室蘭の魅力を発見・発信し、まちづくりや室蘭の「新しい文化地図」をつくることを目的に様々な活動をおこなっています。

今回は、メイン会場として2つの円形校舎のある*旧絵鞆小学校、初回から協力をいただいている千穂萬歳堂、中央町にて作品展示をします。食事スポット等の紹介もこのパンフレットでお知らせします。

アート作品によりまちの見慣れた風景が変わる。人が集まり、交流し、室蘭の魅力を再発見してほしいと考えています。

会場にいるスタッフや、お客さん同士で話しをしてみましょう。展示を撮影して感想も添えてSNS等で発表してみてください。そういったちいさな交流が芸術と文化をつくと私達は思うのです。



*旧絵鞆小学校
1960年に建設された2棟の円形校舎小学校。閉校により「体育棟」解体の方針が、クラファン活動等により2020年に（一社）むろらん100年建造物保存活用会へ売却。現在は縄文時代の展示など室蘭市の新たな文化発信スペースとして期待されている。今回、本芸術祭で初の本格的なアート展示を開催する。<https://etomo-enkei.com/media/>

室蘭の新しい文化地図をつくる
Muroran Art Project 鉄と光の芸術祭2023

会 期：2023年9月9日・10日・16日・17日・18日・23日・24日 [7日間] 開館時間10:00-16:00 ※9月8日(金)17:00～ オープニングパーティー
※千穂萬歳堂の展示は、9月16日(土)・17日(日)・18日(月)・23日(土)・24日(日)の5日間
主な会場：旧絵鞆小学校(祝津町2丁目)、千穂萬歳堂(海岸町3丁目)、室蘭市中央町スピーカー(中央町)
参加作家：五十嵐淳、石田勝也、今村育子、上遠野敏、川村弘文、千代明、高橋喜代史、畑中正人、室蘭工業大学山田研究室
パフォーマー：澤口勝、音tuLaLa×書Natsuki
主 催：Muroran Art Project
協 力：(一社)むろらん100年建造物保存活用会、蘭歴建見会、室蘭工業大学山田研究室
後 援：室蘭市、室蘭市教育委員会、室蘭商工会議所、(一社)室蘭観光協会、北海道新聞社、室蘭民報社、室蘭まちづくり放送(FMびゅう)

○オープニングパーティー 9月8日(金)17:00～旧絵鞆小学校野外スペース(旧絵鞆小ライトアップ・室蘭クイズ大会・飲食ブース等)

○お問い合わせ Muroran Art Project メールアドレス:info@m-a-p.jp

※開館・閉館時間は各会場によって異なります。公式サイト及び公式パンフレットをご確認ください。

Muroran Art Project(MAP)とは

アートの力で室蘭の魅力を発見・発信し、まちづくりや「室蘭の新しい文化地図をつくる」ことを目的に、様々な活動を続けています。 <https://m-a-p.jp/>



おすすめスポットMAP



展示会場

A 旧絵鞆小学校

祝津町2丁目
メイン会場でMAP本部。
すべてが円形の空間に注目!



Art and Food & Drink are Connected

地域アートを巡ることは

その地の場所ともつながるコトだと思ふ。

「観る」合間の飲食はたしかな記憶を作っていく。

展示会場及びお勧め飲食店等を

本誌パンフ編集長石川の独断でご案内しますね。

44 たべる・飲む

- 1 天勝**
室蘭市中央町2丁目3-16
天井と天ぶら料理を楽しむ!
- 2 鳥辰**
室蘭市中央町3丁目7-1
「一平」にならぶ室蘭やきとりの名店。豊富なメニューも魅力。
- 3 手打ちそば処・縁**
室蘭市中央町2丁目2-16
名物は鴨焼きセイロなんです。
- 4 味の大王 室蘭本店**
室蘭市中央町2-9-3
カレーラーメンが食べたい? それなら、ここ。

- 5 清洋軒**
室蘭市舟見町1丁目6-4
カレー? いやいや塩ラーメンの魅力です。
- 6 ランプ城**
室蘭市栄町1丁目127-3
映画のロケにも使用。時代感たっぷりのカフェ。
- 7 ノンシャラン**
室蘭市築地町89-40
市民と観光客にも愛される活気ある老舗洋食屋さん。
- 8 カレーショップ コロンボ**
室蘭市築地町89-107
ルーカレーが食べたい! 隣が洋食店「ノンシャラン」なので必ず迷う。

- 9 みるく亭**
室蘭市祝津町3丁目7-6
住宅街の洋食屋さん。落ち着く空気。住宅街の洋食屋さん。落ち着く空気。
- 10 くじら食堂 鉄ノ街珈琲**
室蘭市祝津町4丁目16-15 道の駅たら室蘭内
道の駅内のみんな好き好きフードコート。

- 11 母恋めし本舗 本店**
室蘭市絵鞆町4丁目2-14 エンムマリーナ
駅弁。ホッキ貝のおにぎりに燻製たまごとスモークチーズ。
- 12 宮越屋珈琲 MUTEKIROU**
室蘭市絵鞆町2丁目11-1
海を見ながらジャズとコーヒー。

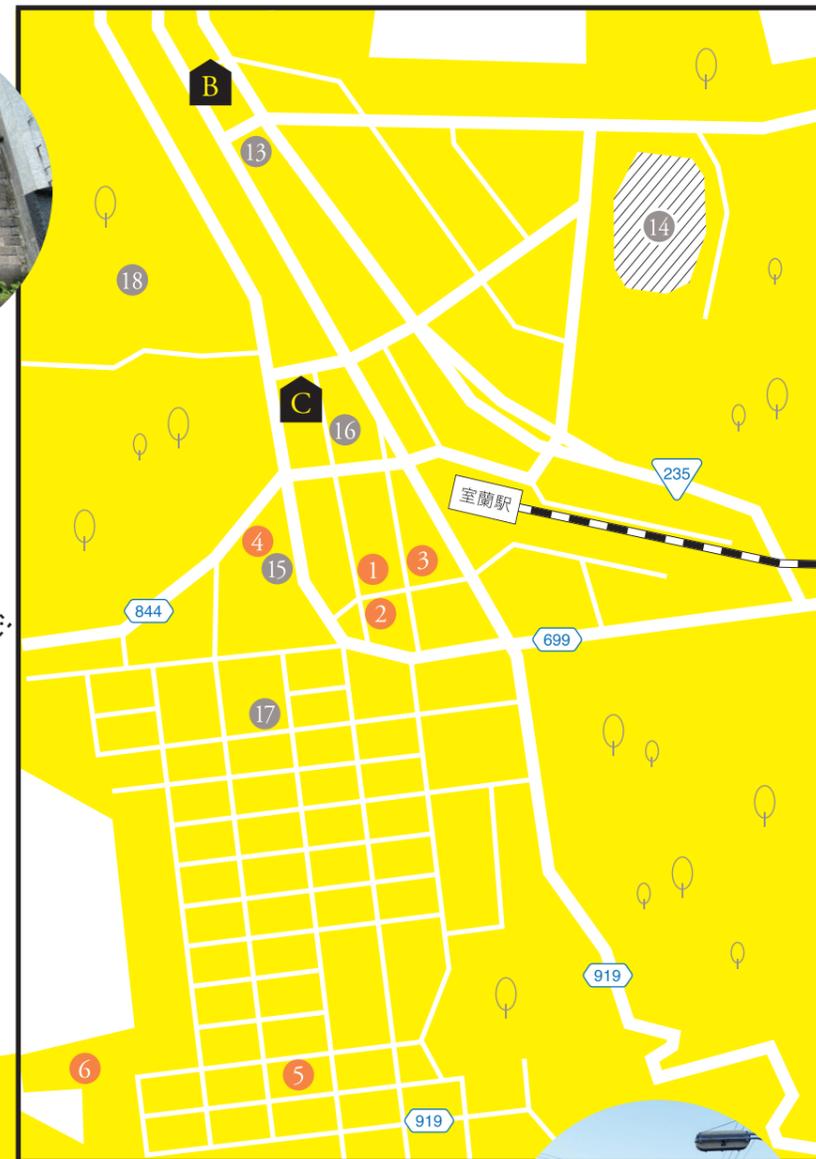
展示会場

B 千穂萬歳堂

海岸町3丁目
歴史的建造物をモダンなギャラリー空間に再構築。
9月16日(土)・17日(日)・18日(月)・23日(土)・24日(日)の5日間の開催になります。



ZOOM



展示会場

C 中央町のスピーカー

商店街を音楽作品で包み込みます。



スポット

- 13 旧室蘭駅舎 (室蘭観光協会)**
室蘭市海岸町1丁目5番1号
昔の駅の雰囲気と観光相談ならココ。
- 14 入江運動公園 陸上競技場**
室蘭市入江町1番28
野外彫刻作品が14点に囲まれる体験。
- 15 ミニマム**
室蘭市中央町 1-1-18
古本屋さん+文化を感じるトコ。
- 16 びんくのぱんだ**
室蘭市中央町2-9-3
ハンドメイドでクリエイティブ。
- 17 室蘭市民美術館**
室蘭市幸町6番23号(室ガス文化センター地階)
地元の定番アートのスポットを押さえる。
- 18 室蘭八幡宮**
室蘭市海岸町2丁目9番3号
階段を登り室蘭を眺められる場所。
- 19 祝津公園**
室蘭市祝津町3丁目4
室蘭を見下ろす。
- 20 室蘭水族館**
室蘭市祝津町3丁目3-12
北海道最古の水族館。遊園地でもある。
- 21 むろらん温泉 ゆらら**
室蘭市絵鞆町4丁目2-17
風景をみながら温泉で一休み。

※各店舗の営業時間等はスマホ等で事前にお調べください。このほかにも室蘭には楽しいスポットがたくさんあります。ぜひ探して体験してみてください。

The beginning of all art
There are people inside.

すべてのアートの
はじまりは人である。

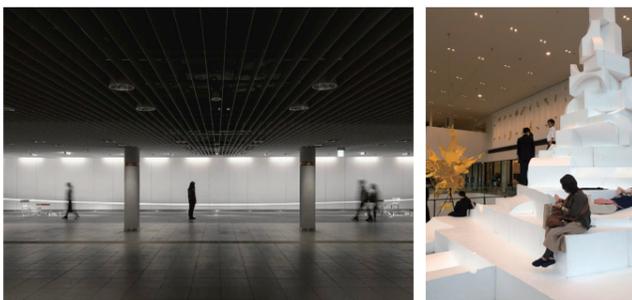
出展アーティスト

知ることから深くなる。本芸術祭に参加した国内外で活躍する作家らを紹介し、アート鑑賞は作品をじっくり観るのが大事。同時に作家やアートについて知るのも同じくらい大切。知らないことをスマホや図書館でぜひ調べてみましょう。

A 展示場所／旧絵鞆小学校



Jun Igarashi
五十嵐 淳
(建築家)



紙という素材を使い小さな建築を作るプロジェクト

発泡スチロールによる大きな居場所を作るプロジェクト

北海道の風土、気候、風景との共生を前提としながらも、建築の普遍的な価値を問いかけ、建築単体の存在を超えて建築のはじまりの姿にまで思いを馳せながら、「人間の原初的な居場所」という「状態」を模索し続けている。北海道の環境を読み解きながらも豊かで独自の空間を生み出している。その思想や概念は、国内はもとより海外からも注目を集め、2003年には第19回吉岡賞、2005年には日本人として初めてBARBARA CAPPOCHINビエンナーレ国際建築賞グランプリ(イタリア)を受賞、2009年にはJIA新人賞、2018年日本建築学会賞教育賞、2019年にはデダロミッソ国際建築賞審査員特別賞(イタリア)を受賞した他、オスロ建築大学にて客員教授として教壇をとり、海外での講演会も多数。著書に「五十嵐淳/状態の構築」(TOTO出版)、「五十嵐淳/状態の表示」(彰国社)。

A 展示場所／旧絵鞆小学校



Satoshi Katono
上遠野 敏
(美術家/札幌市立大学名誉教授)



「家族の肖像シリーズ」2022年
w12xh2x0.65m / フェルト、毛皮など

「引き受け地蔵」2022年
w12xh2x0.65m / テラコッタの地蔵・石の地蔵656体

美術家、札幌市立大学名誉教授、札幌芸術賞。東京藝術大学大学院彫刻専攻修了。主な展覧会に「芸術の森美術館インスタレーション#4上遠野敏」、「北日本の5人の作家達」(ハンプルク総合芸術館カンブナーゲル/ハンプルク文化庁主催)、「札幌国際芸術祭2014」(500m美術館)、上遠野敏展「命と祈りの約束」(500m美術館)など。「札幌駅南口モニュメント」3部構成の監修・デザイン・制作。アートディレクターとして「札幌市生涯学習総合センター館内アート設置計画」、「Beautiful Japanese Heart Project平和の旗・札幌コンベンションセンター開館1周年事業」、「そらち炭鉱の記憶アートプロジェクト」、「札幌国際芸術祭2017:札幌と北海道の三至宝」など。

B 展示場所／千穂萬歳堂



Hirofumi Kawamura
川村 弘文
(工芸作家)



「美り」2020年
w10.8xh18cm / 付着法蜂蝋、漆絵 / アuvi、カシュ

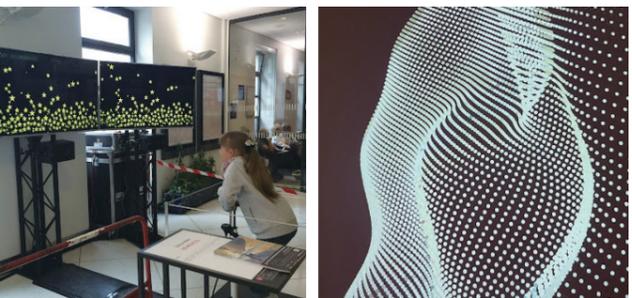
「小春日和」2021年
SM 縦線A4 / アuvi、彩色銀箔、カシュ

1955年北海道苫前町出身。北海道教育大学特美木材工芸専攻。1981年に来日したインド人テキスタイル作家のプラブハカール・ナイクサタム氏に師事し、音威子府でシルクスクリーン印刷を学ぶ。2008年独学でテキスタイル制作を始める。同年道展初出品入選。2010年北海道テキスタイル協会会員。2014年北海道美術協会会員。道展の他に、「北の織り いま昔(札幌芸術の森)」、「西安・北海道中日友好美術展」などに出品。おといねっぶ美術工芸高校、室蘭清水丘高校、室蘭栄高校にて美術の教鞭を執る。教員退職後、2018年より独学で漆芸を始め、札幌・室蘭で個展「漆芸展」を開催。

A 展示場所／旧絵鞆小学校



Katsuya Ishida
石田 勝也
(研究者/テクニカルエンジニア)



「Heart☆Full」Bains numeriques / 2014年
空圧センサ、空気入れ、作品用プログラム、マイコン

2022さっぽろアートステージ「風を想う」ビジュアル
風速計・作品用プログラム・マイコン・スピーカー

1970年、愛知生まれ。室蘭工業大学建設システム工学科、博士前期課程修了。環境情報と音響映像コンテンツを使用した創造的空間の構築が研究テーマ。日々刻々と変化する環境をメディアテクノロジーによって表現する活動を行っている。2014年に作品「Heart☆Full」をBains numeriques(フランス、アンギャン・レ・パン市)にて発表。札幌国際芸術祭2014にて坂本龍一氏の作品「Forest Symphony」のテクニカルスタッフとして参加後、現在SIAFラポメンバーとして活動。2022年、風の情報を活用したサウンドアンドビジュアルインスタレーション「風を想う」をさっぽろアートステージ(札幌市民交流プラザ)にて発表。

A 展示場所／旧絵鞆小学校



Ikuko Imamura
今村 育子
(美術家)



「むこらの部屋」2018年 / w1000xh300xd500cm
インスタレーション 木材、壁紙、電球ほか

「反射する層」2020年 / 10mの池の中に作品を設置
インスタレーション 鏡、浮き、鉛ほか

2006年より美術家として国内外で展示を行い、光のグラデーションをモチーフにインスタレーション作品を制作している。主な展覧会に2022年「RIMOKON」Artothek, PLATFORM(ミュンヘン)、2019年「第7回札幌500m美術館賞入選展」500m美術館(札幌)、2017年「家族の肖像」本郷新記念札幌彫刻美術館(札幌)、2016年「ともにいること ともにあること」北海道立近代美術館(札幌)、2014年「札幌国際芸術祭2014」500m美術館(札幌)、「AKARI reflection|ひかりの連鎖」モエレ沼公園 ガラスのピラミッド スペース2(札幌)、2011年「Living Art」札幌芸術の森美術館(札幌)など。2011年より札幌駅前通まちづくり株式会社へ入社し、「シンクスクール」「PARC」「パラルミュージアム」などの企画やデザインを担当する。

<https://www.imamuraikuko.com>

B 展示場所／千穂萬歳堂



Akira Sendai
千代 明
(美術家)



「Work no1 2022」2022年
w100xh160cm / Urethane on Aluminum

「Work no8 2016」2016年
w141.5xh141.5x3.2cm / Urethane on Aluminum

1957年北海道日高町出身。宇宙、自然、生命などの持つエネルギーをテーマに作品を制作。アルミニウム板を支持体にスクラッチを施しウレタン系のカーペイントによる着色で、3Dのような存在感のある平面と立体作品を制作。主な展覧会として国内は東京、京都、札幌をはじめ、海外はニューヨーク、パリ、大邱、ハノイなどで出展している。

A 展示場所／旧絵鞆小学校



Kiyoshi Takahashi
高橋 喜代史
(美術家/一般社団法人
PROJECTAディレクター)



「東を西にかえる」2022年
w3500xd1900xh2000mm / LEDライト、鉄、木

「ザブーン」2021年
W3600xH2400xD1500mm / 鉄、塗料

1974年北海道出身。「言葉と身体」に関する映像作品と立体作品を制作。近年は、地方や社会の問題に個人の心情を重ねる作品を発表。主な展覧会としてフランス、ニュージーランド、北アイルランドでの個展。カナダ、ドイツ、中国でのグループ展など札幌を拠点に国内外で活動。2022年 第2回 KYOBASHI ART WALL 優秀賞。2020年 第3回本郷新記念札幌彫刻賞。2010年 JRタワーアートボックス最優秀賞。2006年 第23回産経国際書展入選。2000年ビッグコミックスピリッツ努力賞。1995年ヤングマガジン奨励賞。2012年より500m美術館の企画をはじめ、テラス計画、Think School、パラルミュージアムなど、地域における美術の企画運営も行う。2015年一般社団法人PROJECTA設立。

A

展示場所／旧絵鞆小学校

Shin Yamada Laboratory,
Muroran Institute of Technology

室蘭工業大学 山田研究室



「カトリック東室蘭教会」2016年



「Adagio」2022年

山田深/室蘭工業大学大学院もの創造系領域建築学ユニット准教授。1962年東京生まれ。建築設計・意匠学が専門。現代の建築・都市空間の特質を明らかにしながら、人間・社会・街・自然・環境など様々な水準の「関係性の網目」として建築・空間を創り上げることを目指す。山田研究室では、現在大学院生と学部生合わせて11名が設計活動および研究に取り組んでいる。主な建築作品に「カトリック東室蘭教会聖堂」など。たのしまさる会議の活動を通じてまちづくりにも関わる。MAPには2021年から連続しての参加となる。

前夜祭(9月8日) パフォーマー



Show Sawaguchi

澤口 勝

(一般財団法人 縄文芸術文化財団)



「札幌芸術の森30周年」2016年 / BON!ダンスより

当財団は縄文文化のさらなる発信を目指し、2019年10月設立いたしました。これまで、縄文太鼓の制作・演奏・指導に関する一切の活動や門下メンバーのマネジメントを行うとともに、長きにわたり培ってまいりました人的・地域間のつながりをより強め、全国、世界に発信し得る芸術文化としての「縄文」への共感の環を広げてまいります。2021年7月に開催された世界遺産委員会において、私共も念願してまいりました「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界文化遺産への登録が実現いたしました。今後も活動の幅をさらに広げ、公益財団法人への移行も視野に、縄文文化の発信と高揚に一同邁進してまいります。

C

展示場所／中央町スピーカー



Masato Hatanaka

畑中 正人

(作曲家／サウンドデザイナー)

1975年北海道出身。作曲と音響学を独学で学ぶ。音のオートクチュールをコンセプトに広告、映画、舞台、イベント、建築、展覧会等、あらゆる分野に数多くの「音楽」や「音」を提供している。2002年よりドイツ・ハンブルクに拠点を移し主にバレエ音楽を数多く手がける。2004年に帰国後は空間のためのサウンド制作を積極的に行う。2015年には「はこだてみらい館」インタラクティブコンテンツのサウンドデザイン、2018年にはヤマハ本社イノベーションロードの360度サラウンドシアターのサウンドデザインを手がける。なお近年は映像や写真など音楽以外にも表現の領域を広げている。

前夜祭(9月8日) パフォーマー



tuLaLa

Natsuki

音tuLaLa × 書Natsuki



「ニセコ有島記念館 野外」2023年 / 音tuLaLa × 書Natsuki Live Art performance より

tuLaLa(音楽家)

作曲家 編曲家 サウンドプロデューサーの下川佳代のソロプロジェクト。アーティスト名は生まれ育った極寒の地、旭川の冬景色を象徴する氷柱ツララに由来。ピアノを中心にネオクラシカルでアンビエントな世界を表現。作品はACジャパンのCM起用や札幌国際短編映画祭でMVが入賞。並行して下川佳代名義でアーティストへ楽曲提供、映画、舞台、アニメと多方面の音楽を手掛けている。久保奈月(書道家)
1984年北海道共和町出身。7歳から依頼作家佐藤瑞鳳氏に師事。全道書道展、国際現代書道展にて奨励賞等受賞。2014年-2018年まで計5度アメリカシカゴにて展示会やパフォーマンスなど活動。音、光、チョコレート等を使ったパフォーマンス、「解体創書」と名づけたシリーズ等、新たな書の表現を日々研究中。